奈良・平城京跡（3）

1　所在地　奈良市西大寺宝ヶ丘

2　調査期間　第五三二次調査　二〇〇五年（平17）五月～七月

3　発掘機関　奈良市教育委員会

4　調査担当者　久保邦江

5　遺跡の種類　都城跡

6　遺跡の年代　古墳時代・奈良時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、平城京の条坊復元では右京北辺四坊三坪の東南隅にあたる。この地は鎌倉時代末の『西大寺与秋篠寺相論絵図』に「本願天皇山荘跡」と記されている。西に隣接する六坪との坪境に相当する場所に、絵図に描かれている中島を有する池が現存することから、三坪・六坪の二町分の宅地利用が考えられ、併せて称徳天皇山荘跡と推定されている。

（奈　良）

検出した遺構は、古墳時代の溝二条・土坑二基、奈良時代の溝二条・井戸一基・土坑二基・掘立柱建物二棟・掘立柱塀三条である。奈良時代の二条の溝は、西四坊坊間東小路西側溝と雨落溝である可能性が高い。発掘区東端は幅一・五m以上、長さ二二m以上、深さ〇・八mの範囲が後世に掘削されており、遺構面は破壊されている。

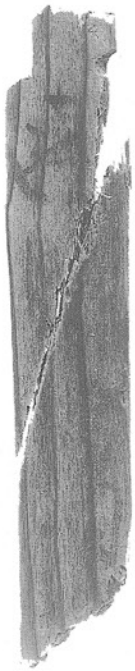
木簡は、この後世の掘削部分の底面から出土した。掘削は奈良時代以降に行なわれているが、遺物が極めて少量で掘削の時期を特定することはできない。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「V□□□　国□〔人カ〕」　(121)×21×6　039

上端は切り折り調整による加工で、左右両辺は削りで整形している。材の上端の左右に切り込みを入れる。下端と上端左部は欠損している。木簡の形態からみて、荷札であると思われる。

なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。



（久保邦江）